

災害対策・復興まちづくり部門

土肥真人

【全体講評】

こんにちは。運営委員長を務めております土肥です。

「災害対策・復興まちづくり部門」は、昨年の東日本大震災に世田谷のまちづくりは何かできることはないのだろうか、という素朴な思いから生まれました。募集の主旨にある「世田谷のまちづくりは、傷ついた仲間である北のまちに何かできることがないでしょうか。そして仲間のまちを助けることは自らのまちを更に豊かにすることにつながるのではないのでしょうか。」という思いです。私たち運営委員会は例年の2倍程度の会議を持ち、地震・津波・放射能に被災したまちへ様々な協力を行っている市民グループの方々にお話を伺い、部門の基本的な内容を詰めてゆきました。この検討過程で大きく問題となったのは次の2点です。

一点目は当ファンドの信託契約書にある「世田谷区における住民主体のまちづくりの促進を図るため」という信託設定の趣旨に関わるものでした。被災したまちの復興支援だけでは、世田谷の住民主体のまちづくりへの貢献にはならないのではないか、という問題です。運営委員会でも多くの議論がなされ、復興支援は必ず世田谷のまちの糧にもなるという確信と論理を固めてきました。この点を明確にするために、助成を受ける団体には、世田谷のまちづくりへのフィードバックを報告してもらうということになりました。

もう一点は、予算の問題です。世田谷まちづくりファンドは、これまで19年間、毎年、信託・寄付される約500万円を助成の総額とすることを基本としてきました。（民間都市開発推進機構からの信託による「拠点部門」を除く。）現在の信託財産は一億四千万円程ありますが、こちらには手をつけないという不文律があったようです。しかしこの新部門は従来の世田谷のまちづくりへの助成分500万円とは別に創設すべき性格のもので、信託財産の一部を助成へ当てられないか、という検討を行いました。委託者のトラストまちづくり、受託者の中央三井信託銀行、両者にも運営委員会の議論の趣旨を理解していただき、初めて300万円の助成を信託財産から当てることになりました。

また、2012年度にすぐに助成金を使って活動が開始できるように、3月に公開審査会、それに先立つ広報・募集期間など、時間的にもかなりタイトなスケジュールの中で、「災害対策・復興まちづくり部門」の一件当りの助成限度額、助成金の用途制限、審査方法などを詰めることができたのは、運営委員の皆様をはじめ、ファンド関係者の多くの方々の協力があったからだと感謝しております。

さてこのように運営委員会としてはかなり頑張って創設した新部門ですが、3件程度としていた助成件数に対し、10件もの応募がありました。世田谷のまちづくりの層の厚さと活

動の幅の広さに改めて驚かされました。しかし同時に半数以上の団体に助成できないという、おそらくこれまでにない厳しい事態となりました。公開審査会でもご説明しましたが、審査会に先立つ運営委員会で、助成対象を最大4件にすることを決めましたが、それでも6グループは助成できないこととなります。世田谷のまちづくりのエネルギーの圧力、活動圧とでも呼べるものを強く感じる事態でした。ぜひ来年もこの部門を継続し、さらに助成総額についても検討したいと思っています。

3月3日の公開審査会は、運営委員8名で審査いたしました。1団体8分発表6分質疑のプレゼンテーションの後、すぐに審査に入りました。投票の結果、〔芦花公園しあわせ野音の会〕〔福島のごどもたちとともに・世田谷の会〕〔遊びとまち研究会〕〔こちカフェ隊〕が2012年度の「災害対策・復興まちづくり部門」の助成団体となることが決まりました。それぞれ、芦花公園と宮城県亶理郡亶理町の仮設住宅、世田谷と福島の高放射能の場所の子ども、世田谷の小中学校と仙台市の小学校、世田谷と宮城県東松山市東名、を世田谷のまちで磨いてきた得意技でつないでくれます。地震・津波・放射能の被災地、被災者の方々と強く繋がり、少しでも支え、共に歩めるような活動を、期待しています。活動報告会が、来年2013年3月2日に成城ホールで開催されます。助成を受けることになった4団体の方々の素晴らしい活動報告と、せたがやのまちを強く豊かにする提言を、楽しみにしています。

また助成対象団体とはならなかった皆様と、皆様が繋がろうとしたまちと人々には、心から申し訳なく思っております。この一年間の頭の下がるような地道な活動とそこから生まれた繋がるための素晴らしい提案が本当に多くあったのに、それを応援できなかったことは本当に残念で、また悔しくもありました。ぜひ活動を継続され、提案を実現されることをお願いしたいと思います。そして来年度、「災害対策・復興まちづくり部門」が継続された場合は、ぜひもう一度応募していただきたいと存じます。

この4月から世田谷まちづくりファンは、設立20周年を迎えます。これまでのファンの成果を振り返り、またこれからのファンの意義を確かめる作業を、運営委員会で続けております。来年度は「十代まちづくり部門」も新しく創設しました。多くの年代の市民が、これまでの20年のようにこれからの数十年も、支えあい、喜び合い、共に生きるまちを作る、ファンはその応援をしたいと願っています。

最後になりますが、司会を担当していただいた中央三井信託銀行の稲垣様、運営をお手伝いいただいた、まちづくり広場とトラストまちづくりの皆様、また審査会で発表された市民の皆様、審査会を見に来場してくれた方々、皆さまのご協力に深く感謝いたします。

【個別講評】

〔SAN／せたがや地域共生ネットワーク宮坂・経堂・赤堤〕

世田谷に避難してこられた方々との活動、普段からの地域での繋がりを創り出す活動、敬服しています。今回は残念な結果になりましたが、ぜひこれまでの活動から得られた実力で、地域のつながりの「核心へ飛び込んで」いって頂きたいと思いました。そして学ばれたことを、また教えていただきたいと心から思っています。

〔芦花公園しあわせ野音の会〕

音楽が、笑いが創り出す人々の心の余裕とつながりを、芦花公園での長い活動から確信され、亘理町の人々におすそ分けしているのだな、と思いました。「縁日」が非日常から日常を豊かにするものだとなれば、音楽や笑い、おいしい食べ物は確かに不可欠ですね。仮設住宅で孤立しがちな人々に、都会での孤立と取り組んできた私たちができることがある、という主張にも、はっとさせられました。世田谷に何を持ち帰ってくれるのか楽しみです。

〔太子堂2・3丁目地区 まちづくり協議会 with ライオンズクラブ〕

世田谷でのまちづくり活動とライオンズクラブの活動の関わりが、やはり気になりました。ただ、まちづくり活動は被災地からいろいろなものを受け取ることができるのだ、という主張には、おもわず膝を打つものがありました。提案の重要さには納得していますので、まちづくりの主体としては何を知り、どのように纏めるのか、より具体的にされ、何らかの形で活動を実現していただきたいと思いました。

〔いきいきネットワーク（いのちからいのちへ）〕

音楽を携えて村から村へ歓びを配って歩く、そんなイメージでした。きっと多くの人々が、皆様の活動から、なぐさめとはげましを受け取っているのだなと感じました。ただ質疑にもありましたように、まちづくりファンドの対象としては、皆様の活動が被災地のまちづくりに、世田谷のまちづくりにどのようにつながるのか、その回路の説明にもうひとつアイデアが欲しかったと思います。

〔池尻ロマンス座〕

いわきと世田谷をつなぐ素晴らしいアイデアですね。災害を受けて弱った大地を優しく復興し、その産物を人々の手作業を通して、より多くの人々に渡してゆく、その流れに被災地と世田谷がうまく組み込まれていると、感銘を受けました。今回は現段階での活動実績が重視され、残念な結果になったのかと思いますが、ぜひこの活動を実現していただきたいです。

〔福島のこどもたちとともに・世田谷の会〕

こどもたちの生命を脅かす重大な事態に対して、多くの大人が集まり具体的な行動を開始する。当前のことかもしれませんが、しかしこの当然のことを実践されていることに頭が下がります。子ども達が世田谷で楽しい春休み、夏休みを過ごし、世田谷を愛してくれるといいですね。また市民レベルでの定住サポートの提案は、子ども達とその家族だけでなく、彼らを受け入れる世田谷の町を美しくするだろうと、強く思いました。報告会を楽しみにしています。

〔日本防災士会世田谷支部〕

今回はまだ準備不足なのかなと思いました。活動の目的である仮設住宅に暮らす人々メンタルケア、支援の受け入れ態勢、被災体験の共有システムなど、被災された人々にも世田谷のまちにも重要なことだと思います。ぜひ実現の方途などをより具体的に検討され、実践していただき、その活動実績をもって再度挑戦していただければと思います。

〔遊びとまち研究会〕

質疑にもありましたが、世田谷での多世代遊び場マップ作りとは違う状況が、被災地にはあると思います。被災前のことを尋ねることには、提案される意義と同時に危うさも感じます。また多世代遊び場マップが被災地の復興にどのように役立ち、世田谷のまちは何を学ぶのか、私にはまだよく分からないところもありました。報告会では、そういうことだったのか、というお話を楽しみにしています。

〔NPO 法人 国境なき楽団〕

世田谷でも被災地でも、素晴らしい活動をされていることが、よく伝わってきました。皆様の提案を聞きながら、多くの人がつながることと地域的なまとまりの関係を再考していました。私は「まちづくり」が一定の場所に閉じ込められるものではないと思っています。同時に地域というまとまりにも大きな意味があると思っています。今回は残念な結果になりましたが、皆様の提案はぜひ実行に移されて、いわきの街なかと世田谷の街なかを音楽でつないで頂きたいと思いました。

〔こちカフェ隊〕

見事なプレゼンテーションでした。7年の場作りの実績が被災地での柔軟で具体的な実践につながっていることが、よく理解できました。世田谷で皆様が培った人と人が共にある場所を作り維持する技が、東名地区でも必ず役立つと確信させられました。息の長い活動を志しておられるとのことですから、カフェや共生の家を通して姉妹コミュニティができることでしょう。本当に素晴らしいことだと思います。報告会、楽しみにしています。